平成22年度 第４回 鳥取市生活交通会議
議 事 要 旨

１．日　時　：平成22年12月2日（木)、9：30～11：45

２．場　所　：鳥取市役所 本庁舎 4階 第3会議室

３．出席者　：

○会　長	〔学識経験者〕	鳥取大学大学院　工学研究科　教授	谷　本　圭　志
○副会長	〔鳥取市〕	都市整備部長	田　中　政　幸
○委　員	〔住民･利用者代表〕	市自治会連合会（旧鳥取市,国府町,福部町）	南　部　　敏
		〃　　（河原町,用瀬町,佐治町）	谷　村　萬　吉
		市老人クラブ連合会（旧鳥取市,国府町,福部町）	前　田　　豊
		〃　　（河原町,用瀬町,佐治町）	田　渕　丹　次
		〃　　（気高町,鹿野町,青谷町）	本　部　享　司
		鳥取市連合婦人回	油 谷 都 々 江
	〔NPO法人〕	社会福祉法人鳥取市社会福祉協議会事務局長	岡　本　洋　一
	〔運送事業者〕	日ノ丸自動車株式会社 取締役営業部長	中　村　芳　晴
		日本交通株式会社 バス営業部次長　代理	石　黒　久　司
	〔事業者団体〕	鳥取県ハイヤータクシー協会東部支部長	橋　本　貞　治
	〔運送事業者団体〕	私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部 執行委員長	村　上　　恵
	〔鳥取市〕	福祉保健部長	井　上　隆　芳
	〔中国運輸局〕	鳥取運輸支局首席運輸企画専門官　代理	田　中　哲　志
	〔警察〕	鳥取警察署交通第一課長	樋　口　　敬

○事務局　：鳥取市都市整備部交通政策室（中村、鈴木、澤田、遠藤）

○その他　：バイタルリード（森山、田中）

４．次　第　：1）開会

2）会長挨拶

3）協議事項

【有償運送運営協議会】

案件1：過疎地有償運送（NPO法人OMU）の更新登録について

【地域公共交通会議】

案件2：平成22年度地域公共交通活性化・再生総合事業

（湖山循環実証運行）に関する事後評価について。

案件3：鳥取市バス路線再編実施計画　全体像（素案）について。

〃　　南部地域実証運行編（素案）について。

4）その他

５．議　事

案件1　過疎地有償運送（NPO 法人 OMU）の更新登録について

事務局	資料説明（過疎地有償運送に関する資料）
OMU	事業をはじめてもうすぐ２年を迎える。利用者からは、有難いという言葉をもらっている。
谷本会長	必要性はあり、これまで事故等はないようだ。運送実績についてききたい。
OMU	わずかだが、利用者は増えている状況だ。
谷本会長	高齢化がより進むと、バスにすら乗ることができなくなる。 そのときに必要なのはタクシーのようなサービスではないか。そういうことも今後考えていく必要がある。
岡本委員	介護が必要な場合、その介護者の料金はどうするのか？
OMU	そういう事例は今のところ見られない。
岡本委員	視覚障害者のガイドなどは？
OMU	今のところそういうケースはない。
谷本会長	介助者の費用負担については、行政機関を含めて考えていく必要がある。 今後の課題になる。
井上委員	福祉有償運送というサービスが一方である。このサービスでは介助者は無料としている。過疎地有償運送の場合については、今後の協議が必要。
橋本委員	事業の採算上どうなのか。ガソリン代などを考えて、この先事業として継続していくことができるか。
OMU	ガソリン代を考えると赤字だ。財政的には厳しい。 視察にくる人も多いが、その人に対して「この先、やり続けられるのですか？」ということを聞くことにしている。
橋本委員	料金が２００円でいいのか、ということも考える必要があるのではないか。
事務局	市、県の補填の制度も活用している。
谷本会長	理想だけでサービスの維持をはかるのは大変なこと。 更新については、OMU の事業の更新については、承認ということでよいのではないでしょうか。（全会一致で了承）

案件2　地域公共交通活性化再生総合事業（湖山循環バス実証運行）に関する事後評価

事務局　　資料説明（活性化・再生総合事業の資料について）

井上委員　　湖山循環の１便あたり1.8人というのは、変更の前なのか後なのか。

事務局　　６月までが1.8人、　６月以降が1.9人。

谷本会長　　事務局の報告を承認としたい。

案件３：鳥取市バス路線再編実施計画　全体像（素案）について
南部地域実証運行（素案）について

事務局　　鳥取市バス路線再編実施計画（全体像）について説明（実施計画の１６ページまで）

谷本会長　　幹線については、５分から１０分に１本という間隔のサービスを想定している。

谷村委員　　佐治からは、直接鳥取中心に行くのではなく、用瀬で乗り換えるという考えでよいのか？

事務局　　その考えだ。

谷本会長　　乗り換えが増えるが、トータルでサービスが向上されると考えていただきたい。

谷村委員　　いい方向ではないか。

南部委員　　基本的にはこの方向でよいと思う。

中村委員　　スクールバスの運行によって、路線バスの乗客が流れてしまい、路線バス事業が苦しくなるというケースが今後考えられる。
教育委員会との話し合いが必要ではないか。その考え方を知りたい。

事務局　　現在は、鹿野と青谷に専用のスクールバスが運行している。
今後は、鳥取市全体の中で、小学校の統合が進み、同様に専用スクールバスを運行させるという話が増えていくことも想定される。
教育委員会に対して確認する。

中村委員　　小学校の PTA からスクールバス運行の要望があったようだ。

田中副会長　　公共交通が何を担うか、という議論の整理が必要。

目的別の交通と仕分ける必要がある。今回の資料では「効率」が優先されすぎているようだ。住民サービスという視点が必要。
乗り継ぎ拠点のプラットフォームということを話しているが、その考え方を最初にまとめて整理、表現しておく必要がある。はじめてこの計画を見た人は、サービスが全体として下がるのではないか、と思うのではないか。

井上委員　市内外循環線について。どこを起点にしているのか、分かりにくい。

事務局　起点は鳥取北と考えている。
郊外のネットワークをよくするために、この線を考えている。

谷本会長　「循環」にはなっていない。鳥取北から国府までの区間だ。

田中副会長　事務局は、環状道路を走っているという意味でそのような名称を考えたのではないか。

井上委員　循環線からの乗り継ぎについては、十分に考えていただきたい。

田中副会長　郡家、津ノ井から中央病院までのルートを考えないといけない。
乗り換えポイントをはっきりさせる必要がある。

中村委員　鳥取西に印がつけられている。
ここは、降りるとどのようなイメージなのか。ここには鉄道駅もない。

事務局　吉岡線などの支線と外循環線が、鳥取西で乗り継ぐことで、鳥取駅まで行かずに、様々な方向へ行くことができるようにしたいと考えている。

油谷委員　鳥取北など、乗り継ぎ拠点の場所を明確にしていってほしい。

谷本会長　今日の時点では、鳥取西という乗り継ぎ拠点の具体的な場所までは決めることができない。
事務局から、地域別の計画を説明するので、その後の議論としたい。

事務局　資料説明（再編実施計画１７ページ以降）

前田委員　神戸線については、現在は千代川の西側を通って鳥取駅に向かルートとなっているが、再編計画では鳥取南でとまっている。
この再編計画では、南部地域に生活圏が変わるように見える。
この計画では住民から反対を受けると思う。
鳥取西の乗り継ぎ拠点まで行くのであれば分かる。
または、医療機関が多くある吉成南まで行くことはできないか。

事務局　バス路線に関しては、旧市、新市という考え方はない。
神戸線沿線の住民に求められているのは、鳥取駅まで行きたいということ。

田中副会長　旧市西部地域という名前をやめたほうがいいのではないか。説明を聞いていても分かりにくい。誤解を生む。ABC 地域という言い方でもいい。
神戸線は鳥取西よりは、吉成南の方がいいとは思うが、詳細に検討が必要。

事務局　鳥取南までとするかどうかについては、あらためて検討したい。

田中副会長　千代川の東側ではなく、西側を走るルートも含めて検討が必要。住民ニーズをしっかり把握すること。

南部委員　山間部の区域運行については、将来考えているということでいいのか。

事務局　空白地域の解消のために、過疎地有償運行等の区域運行を考えている。

油谷委員　賀露は、将来的にどうなるのか。

事務局　全体を見ながら、市内の中心部の検討をしたい。
次の段階の検討。

田中副会長　賀露湖山循環のようなものが必要ではないか。

谷本会長　この地域の計画はとても難しい。
施設の立地を踏まえて検討が必要。

田中副会長　JR と連携するというのは現状ありきとなっている。
本数を増やすことができないかというようなことを JR と話をしていくことも必要。JR の運行便数を増やすことができなければ、西部方面の日中の移動はバスが幹線となることも考えられる。
資料の表現について、描かれていないエリアをうすく表現するなどの工夫をしてほしい。
路線について、吉岡までは幹線があってもいいのではないか。
福部地域、岩井線の北側にカバーされていない集落がある。
若葉台線など南東部の路線は分かりにくいので再検討が必要。
計画の中でこの部分が難しいということがあれば、それを課題として分かるようにしておいたほうがいい。

鳥取バス IC カードという表現ではなく、鳥取交通 IC カードなどの名称がよいだろう。
鳥取西という乗り継ぎ拠点の位置については、具体的に検討が必要。

谷本会長　パブリックコメントまでに、どのようなスケジュールになるのか。
検討事項はかなりある。
事務局に各委員から連絡してほしい。

事務局　　資料説明（南部地域の実証運行計画）

谷村委員　　江波赤波線については、全体計画では区域運行としているが、実施計画では路線運行となっているのはどうしてか？

事務局　　全体像の図が誤っている。
今の路線を継続するという考え、南部地域の運行バス車両は全部で２１台を想定している。

田中副会長　　図面の細い赤が、分かりにくい。
色を変えるなど工夫が必要。
最終的なものには、バス停の場所を示す必要がある。
現状のバス停、新設のバス停を分かるように。
拠点ではサイクルポートができるなどがわかるように表現してほしい。

谷本会長　　市立病院にはダイレクトに行けるようにしたほうがいい。
検討の余地がある。

田中副会長　　用瀬駅での接続についても触れておいてほしい。
JR への乗り換えもあるはず。

その他　　（今後のスケジュール）

事務局　　バス事業者と調整　年をあけてから会議を開き、１月中にパブリックコメントの実施を予定。遅れるとしても２月には実施したい。１月に詳細な議論ができるようにしたい。

以　上